

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	皆様の笑顔のために、皆様が生き生きと輝くために、皆様と心通わせ手を取り合い、皆様らしい人生を共に歩んでいきます。	○	理念をもとに、その方が地域の中でその方らしく暮らし続けるために私達にできることがどのようなことなのかミーティングで検討し実現していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は現場の職員が主になって共に考え、決めています。現場の職員のその方に対する思いが詰まった理念になっています。朝の申し送り時、その日のスタッフ全員で理念を唱和しています。	○	理念をもとに、その方らしく暮らし続けるために私達にできることがどのようなことなのかミーティングで検討し実現していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	広報誌に理念を紹介し地域の方が気軽にお持ち帰りできる場所に置いたり、ご家族にも広報誌をお渡ししています。	○	広報誌には、常に理念を紹介し理解していただく機会づくりを行いたい。
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日、商店街に買物へ出かけお店の方と会話や挨拶をかわしたり、リサイクルで使えるものなどを頂いたりしています。毎朝の近隣清掃では、近隣の方に声をかけていただいたり挨拶をかわしています。広報誌でも常時、職員の紹介をしています。	○	今後も、気軽に声をかけていただけるよう積極的に挨拶や会話を交わし関わりを持ち、立ち寄っていただける機会づくりに取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、商店街の夏祭り・七夕などの行事に職員、ご入居者共、積極的に参加しています。	○	運営推進会議では、自治会長、商店街組合長、老人会会長に参加していただいております。行事、催し物などの参加を事前に相談することができているため今後も積極的に参加し交流を深めていきたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所の多目的室を活用し、地域の方々に役立つ教室や講演などを地域に提案しています。	○	地域の方々ご意見をご要望をいただき、ニーズにあった介護、医療教室や講演を実施していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員が主になって行うことで、改めて今の現状を見直し改善する良い機会になっています。	○	自己評価をもとに職員が話し合い改善計画を作成し、取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、状況等について報告や話し合いを行い、ご意見をいただき家族交流や地域への取り組みなどサービス向上に活かしています。	○	学校、老人会など地域に提案することが少ないため、ご入居者・グループホームが地域に馴染み交流ができるように働きかけていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	長崎市介護保険課に事故報告書を提出し報告を行っています。	○	報告事項についてご意見等いただきながら質の向上に努めて生きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ご家族の依頼で裁判所の事務官が調査に来られたときにご本人が動揺、混乱しないよう同席し終了まで立ち会いました。	○	部署内、外の研修会などに参加したり、資料等を配布するなど積極的に進めていきたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部署外の研修会などに参加し、現状を見直したり、ご入居者一人ひとりの表情や行動、身体の状態、言葉などに注意を払い観察し、問題や異常あれば即、対応するようにしています。	○	部署内、外の研修会などに参加したり、資料等を配布するなど積極的に進めていきたい。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間に余裕を持たせ個室で行い、必ず質問等受けるようにしています。	○	分かりやすい言葉や説明の仕方を考え、より理解しやすいように行っていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者の方一人ひとり、管理者、職員と本音が伝えられる関係が築かれているので随時対応ができるようになっています。	○	運営推進会議でも、ご入居者から沢山ご意見、要望等が出していただけるよう努め、外部の方にも聞いていただけるようにしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時、日々の暮らしぶりの話しをしている。又、健康状態での異変や変化があった場合は電話にて連絡をしている。	○	遠方に生活している家族へ対して、短い期間で定期的に報告を行っていきたくので、今後電話連絡だけでなく、手紙などの文書を活用した報告を行っていきたく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱やアンケート、運営推進会議でのご意見、要望をいただけるようにしており、会議で検討し対応できるものは早急に対応しています。	○	ご無記名での定期的なアンケートを実施したり、ご家族が気軽に要望等を伝えられる関係、機会づくり(家族合同食事会など)を行っていきたく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はミーティングで意見、提案をし現場を主となってまとめていく職員を通して報告があり検討し可能なものは反映しています。	○	気兼ねなく意見や提案をできるようアンケートを実施していきたく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	病院の送迎者数が増えたので、夜勤の時間帯を調整し職員を確保しています。	○	ご入居者の心身の状況、要望等に柔軟な対応ができるよう2ユニット職員が理解、連携、協力しあっていくことができるようミーティングや個別に職員へ話し、検討していくことを継続していきたく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の目的、内容は事前に説明しています。職員が2ユニットの入居者の把握と馴染みの関係づくりのために一定期間異動を行った結果、他ユニットのご入居者とも馴染みの関係が築かれ職員の視野も広がり、職員間も理解、協力意識ができてます。	○	事前の状況調査、対応指導を行い異動職員やご入居者へのダメージを防いでいきたく。
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、研修会の案内を回覧、参加を促し、自己研鑽についての考え方や取り組み方についてミーティング時や個別に参加を促す職員に対しては一人ひとり勧めている。	○	意欲的に参加をする職員、家庭の事情等があつてあまり参加できない職員がいるので、勉強会という形で時間も1時間未満で設定し気軽に定期的に学べる機会をつくっていきたく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話や訪問などで情報交換し、ご入居者のケアや職員育成等についてアドバイスを受けたり、グループホーム連絡協議会等の催し物などにご入居者共に参加することがあります。	○	地域との関わり方など、色々な取り組み方を学ぶことができるので、広報誌の郵送や手紙等でのネットワークづくりや、職員やご入居者間の交流の機会づくりを行っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員と随時、業務について悩みや問題がないか個別に声をかけ、話すようにしています。親睦会なども行っており職員間で意見交換や交流の場をつくっています。	○	職員のメンタルヘルスについて研修会や講演会などの参加、他事業所の工夫なども参考にしながらストレス軽減に努めていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりの役割を持たせ、意欲的に仕事ができるようにしています。	○	職員一人ひとりにあった指導を行いながら、意欲を高めていきたい。
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	居室にてゆっくり話を聴く機会を設け、悩み等を聴いています。	○	いつもと違う変化に気づいたら、まず声をかけその方の訴えをじっくり聴くことができるような馴染みの関係を築いていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時、現在の状況などを話し、家族からの意向や悩みなどが常にあるか伺っています。	○	ご家族の表情や言葉等細かなところにも注意を払い、思いを感じとるように努め、ご家族に気軽に話していただける関係を築けるような機会づくり、話しやすい職員、環境をつくってきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者様が今何を必要としているかをその時の勤務職員間でご本人・ご家族の思いをふまえながら随時話し合いを行い実施している。	○	リアルタイムに柔軟な対応ができるように、職員は必要時話し合いをもって対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前面談時、ご本人とゆっくり話しながら、今の思いを受け止め、移ることへの不安などを和らげて説明するようにしています。	○	入居されてからも面談した職員が主に関わりをもち、馴染みの関係・環境が築きやすいように対応している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何を感じているのか、何を思っているのか知ること、私たちにできること、してほしいことがないのか等共に考え支えあう関係を大切にしています。	○	その方にとっての喜び、悲しみ、苦しみ、楽しみを知ることに努め、ご家族のご本人に対する思いを理解し、その方にとって生きる喜びが感じられる暮らしをつくっていききたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思いの中で、家族でしか満たすことができないことがあるときは、本人の状況、思いをご家族に相談し、家族の方と一緒に本人を支えるようにしています。	○	ご家族の面会時、生活の様子や身体、心境の変化を伝え、ご家族のご本人に対する思い、望みを確認しながら、理解し共にご本人を支えていく関係を築いていききたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人やご家族と一緒に過ごせる機会づくりとして、行事への参加などを呼びかけています。	○	ご家族がご本人と過ごせる機会づくりに、毎月1回一緒に食卓を囲む食事会を取り入れるなど、今後もご家族とご本人の関係を断ち切らないような支援をしていききたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	近隣からのご入居者が多いこともあり、散歩や買い物へ出かけると商店街や神社、学校など馴染みの場所が多い、外出では、昔住んでいた家や職場、故郷を思い出すような景色が見られる場所へ行ったりしています。	○	今後は馴染みの人が立ち寄りやすい、一緒に過ごしやすい環境、関係づくりに努めていききたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の時、座る席などを工夫し、ご入居者同士がよりよい関係が築けるようにしています。	○	一人ひとりの性格、ご入居者同士の相性を把握しながら、ご入居者同士が良い関係を築き、共に分かち合い、助け合って生活できるように支援していききたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在のところ、病死された方以外でサービス利用(契約)が終了した方がおられません。	○	今後、他の施設や自宅に戻られるなどサービス利用(契約)が終了された場合でも、いつでも気軽に遊びにきていただいたり、行事など参加の案内などをしていききたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に何か悩みはないか、今困っていることはないかなどを聞いたり、ご家族からの意見、要望を聴きケアプランを検討しています。	○	日々の観察を十分に行い、何が悩み、楽しみ、苦しみ、悲しみなのかを見極め、本人からとの関わりを多く持ち、本音を話せる関係を作るように努めています。ご家族からもご本人に対する色々なご意見を話していただけるようにしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人より、アセスメントをとり、日常生活の会話の中で、これまであった色々な出来事など知ることができるように努めています。	○	随時、知り得たことは記録に残し、センター方式のアセスメント用紙に落とし込んで活用していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりにあった過ごし方、できること、習慣に目をむけ、その方らしい姿を把握するように努めています。	○	随時、気づいたことは記録に残し、センター方式のアセスメント用紙に落とし込んで活用していきたい。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	随時、本人、ご家族に要望を聞いたり、月1回のミーティングやカンファレンスを行い、介護計画を作成しています。	○	月1回のミーティングやその他入居者の状況によってカンファレンスを行い、介護計画を作成しています。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて入居者の状態変化や状況によりプランの見直し、作成を行っているが見直し以前の新たな要望や変化が見られない場合の見直しと計画の変更ができていない。	○	介護計画の書き換え以前に、本人、家族、関係者が話し合う機会をつくり、その時々気づきや意見を最大限反映させながら臨機応変に計画を変更していきたい。安定しているような方でも、月に1回程度は新鮮な目で本人や家族の今の意向や状況を確認していきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録では、本人の言葉、エピソード等を記録するように努め、全職員が勤務開始前に確認するようにしています。	○	個人記録では、本人の言葉、エピソード等職員しか知りえない事実やケアの気づきを生きいきと具体的に記録ができ、全職員が情報を共有しながらケアのあり方や、介護計画の見直し活かしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、ご入居者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援に努めています。	○	今後は、重度化した終末期の入院の回避に取り組んでいきたい。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署とは連携を図り、支援して頂ける様になっている。	○	今後、ご本人と地域の接点を見出し、周辺施設への働きかけやボランティアの協力を呼びかけていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の意向に応じて、医師やPTと相談しリハビリ施設の利用、調整などの支援や近隣の美容室でのセット、メイクや訪問美容サービスを行っています。	○	地域が主催する教室等にも参加できるようにしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に1回開催している運営推進会議に地域包括支援センターの方にも参加して頂いており、協働できるように取り組んでいる。	○	運営推進会議に地域包括支援センターの方に参加して頂くようになり、より関係を強化し周辺の情報支援に関する情報交換を行っていききたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向、同意により事業所の協力医の他、ご家族が希望する医院の受診や利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるようご家族と相談したり、事業所の協力医の訪問診療を受けられるようにしています。	○	通院の仕方や受診結果の報告のありかたについてご本人、ご家族の納得が得られるよう十分な話し合いを行い、受診結果に関する情報の共有を確実に行っていきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療連携機関に専門医が入っており、ご本人、ご家族の希望によって近隣の専門医や以前からのかかりつけ医に受診できるようにしています。	○	専門医から診断や治療、対処方法等の指示をもらっています。今後も、信頼関係を築きながら相談に応じていただけるよう努めていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	各ユニットに一人ずつ看護師を配置しており、常にご入居者の健康管理や状態に応じた支援ができるようにしています。看護師がいないときは介護員の介護記録などで連携をとっています。24時間協力医療機関の主治医や看護師と連絡がとれるようにしています。	○	全入居者の状況がわかるように看護師間でミーティングを行い連携を図っており、又、ご入居者と馴染みの関係づくりや介護員が気軽に相談できるようにしています。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、ご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員が定期的にお見舞いに行き、状況把握に努め、ご家族とも情報交換しながら回復状況等ふまえ速やかな退院に努めています。	○	入院によるダメージを極力防ぐために医師と相談する機会をもち、事業所内で対応可能な段階でなるべく早く退院できようアプローチしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医療機関の主治医、看護師等と話し合いをもち看取りの指針をつくっており、契約時に説明し同意を得ています。	○	ご入居者やご家族が安心してサービスを受けられるよう、看護師による体調や病状の確認や急変時の対応、連絡体制マニュアルを主治医や看護師と検討、作成し設置しています。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームでのターミナルケアについて、知識、理解を深め、職員全体で率直に話し合うことができていない。	○	ご本人やご家族の意向をふまえ医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるようにしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在、住み替えをされた方はいないため、実施していることはありません。	○	他事業所に移られる際は、アセスメントやケアプラン、支援状況等を渡すと共に、情報交換を行い、馴染みの職員が機会をつくって訪問するなど住み替えによるダメージを最小限に食い止めるよう努めたい。
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方で問題があるときはその都度、管理者や職員間で注意をしています。	○	対人サービスに関わる者として、注意深く扱うべきプライバシーの保護の徹底や個人情報保護法の理解に努めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、必ず意思を確認したり、複数の選択肢を提案して一人ひとりが自分で決める場面をつくるよう努めています。	○	職員がご入居者と過ごす時間を通して、希望、関心、嗜好を見極め、それを基に日常の中で本人が選びやすい場面づくりをしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはもっているが、時間を区切った過ごし方はせず、一人ひとりの体調に配慮しながらその日、その時の本人の気持ちを尊重しできるだけ個性のある支援に努めています。	○	全職員が意識を統一して取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	昔から利用している理容室へ行き、散髪されています。その他の方は、毎月1回の美容サービスを利用されています。	○	希望がないご入居者でも、ご家族と相談、協力を得ながら身だしなみやおしゃれができるようにしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好きな料理をできるだけ献立に取り入れるようにしています。調理、盛り付け、片付け等もご入居者と共に行い、職員とご入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができる雰囲気づくりも大切に努めています。	○	今後、ご入居者が、月に1回はご家族、職員と一緒にバイキング方式でにぎやかに楽しく食事ができるような食事を設けていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	疾患等で制限があるかた以外は食べたい物を買に行ったりしている。また、疾患がある方でも、主治医に相談してできるだけお好きなものが食べれるように努めています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェックシートを作成し、排泄パターンを把握しトイレへの声かけを行い失敗がなくなるように支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	清潔保持のため最低入浴していただきたい日の予定は決めているが、入浴の際は本人に入浴希望の有無を確認している。又、入浴日以外に希望された場合、入浴して頂いている。	○	職員によっては、業務的に入浴を勧めることがみられるのでミーティング時に話し合いを持ち、本人の希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめるようにしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援しています。	○	日中の活動の中に、その方が楽しまれ、生きいきとされる姿がみられるようなものを一つでも多く見出し一人ひとりが自分らしく暮らせるようにしていきたい。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしています。	○	ご入居者の経験や知恵を発揮できることの、情報収集に取り組み、遠出の外出や地域の行事参加などの一人ひとりにあった楽しみごと等をご入居者と相談しながら支援していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族やご本人の意向で小額のお金を持って いる方もおられ、買い物や外食などの支払いの 際は、ご自分で支払いをされています。	○	ご家族よりお金を預かり事業所が管理している 方でも外出時や買い物等の支払いの際はご自 分で支払っていただけるように手渡すなどの工 夫をしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望 にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の希望に応じて、季節感を感じ、心 身の活性に繋がるよう日常的に散歩や買い物 へ行き、時々馴染みの公園にお弁当を持って出 かけています。	○	ご入居者やご家族から情報収集し、地域の中 で、その方の馴染みの場所を見つけ、一人ひと りにあった地域とのつながりや喜びを提供して いきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あ るいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつく り、支援している	ドライブで昔の働いていた場所へ行ったり、温泉へ 行きたいという希望が出たときは、予め計画を立 て職員の勤務を調整しながら実施しています。	○	その方が行きたいと思われる遠方の場所への 外出(故郷訪問やお墓参り等)を、ご入居者、ご 家族と相談し協力を得ながら実現していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取り ができるように支援をしている	電話の時は、居室でゆっくり話していただいたり、 その方が手紙やはがきなどを書きたい、出し たいときはいつでもできるようにしています。	○	電話をしない、手紙を書かない方でも、その方が、手紙 を書きたくない、電話はかけたくないと決め付けずに利 用を促すなど、一人ひとりの手紙や電話の習慣、希望、 有する能力に応じて外部との交流を支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気 軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員一人ひとり、ご入居者の馴染みの方たちの訪問を 歓迎し、訪問に感謝の言葉を伝え、お茶をお出したり、 お孫さんなどにもお菓子を召し上がってもらったりしなが らゆっくりと過ごしていただくようにしています。	○	訪問される方々に、笑顔で明るくお迎えし、気持 ちよく、気軽に訪問していただけるようにしてい きたい。
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁 止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘 束をしないケアに取り組んでいる	ベットの柵、センサーマット使用も、必要最小限に し、拘束しないように努めています。	○	全職員が高齢者の権利擁護や身体拘束に対し て細かい部分までの理解ができていないので、 今後は資料を配布したり、勉強会等を行い理解 を深めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけるこ との弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでい る	職員の見守りの方法を確認、統一し、また、一 人ひとりその日の気分や状態を事前に捉えるこ とで日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを 支援しています。	○	勤務スタッフの人数や業務状況によっては、見守りが完 全にできるものになっていないので、家庭でもあるドアペ ルなど違和感のないものを取り付け、職員の見守り方法 の徹底と前兆を捉える対応を継続していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用 者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、ご入居者と同じ空間(記録内容が漏れない状 態)で記録等の事務作業を行いながらさりげなくフロアの 状態を把握するように努め、夜間は定期的にご入居者 の様子を確認するとともに起きたらすぐ対応できるよ う居場所を工夫しています。	○	全職員が徹底できるようにしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミやカッター等危険に使用される方のみ家族に了解を得て預かり管理しています。	○	ご入居者の状況に照らし合わせながら、厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、ご入居者が使うときに注意が必要なもの等に分けて、職員が把握し、管理が徹底できるようにしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各種マニュアルを作成し、いつでも確認が出来るように設置しています。事故報告書を作成し、家族へ連絡報告、説明をしています。事故原因の今後の予防対策について検討し、予防策をたてています。	○	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐ工夫や事故予防策の確認、徹底に取り組んでいきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変、緊急時対応マニュアルを作成し設置、看護師や主治医と24時間に連絡が取れるようにしています。	○	全ての職員が、勉強会や消防署の研修で蘇生術や救急手当の方法などを体験、習得できるように進めています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練を計画しており(1回実施済み)、次回は夜間を想定した訓練を行います。前回の訓練終了後の運営推進会議では報告を行い、自治会や商店街など地域の方からご意見をいただいています。	○	運営推進会議を活用したり、日頃から相談や話し合いなど働きかけ、近所にある消防団や交番、近隣の方々と連携を図り、支援体制の整備に取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時、近況の報告をする際に起こりうるリスクについては説明を行い、ご家族の意向をふまえて対応しています。	○	ご入居者一人ひとりに起こりうるリスクについて、個別に定期的な見直しを行い、ご家族に対応策を説明、話し合いを確実に行っていきたい。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行っており、職員は、日頃より観察を行い、異変に気づくように努め、異変があればバイタルチェックを行いすぐに看護師へ報告し対応しています。	○	異変がみられた時の、状況、状態の情報の共有を徹底し、職員一人ひとりが、異変に気づく観察力を養うようにしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケース記録ファイルに、処方箋や薬情報書、服薬一覧表を作成し綴じて各職員が内容を把握できるようにしています。職員全員がすべて把握ができているとはいえません。	○	今後、どのような意味で処方されているかを看護師に聞くなど、病状の変化や服薬状況の把握できるように取り組みたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックシートを作成し、排便コントロールがうまくいくようにヨーグルトやバナナ等を提供しています。	○	一人ひとりの身体を動かす働きかけの工夫に取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は声かけをして口腔ケアをしており、能力に応じて職員が見守ったり、介助を行っています。就寝前に、義歯の洗浄を行っています。	○	口腔ケアの重要性を全ての職員が事業所内、外の勉強会や研修で理解し、知識、技術を身につけるよう取り組んでいきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を毎食記録するようにし、摂取量が少ない方には個別に対応を考え、摂取していただける食材や調理法などの工夫と声かけ、介助をしています。	○	献立は、栄養士免許を持った管理者が確認しており、献立記入表には目安となるカロリー摂取量を記載し、栄養バランスが偏らない献立が立てやすい様式を使って支援に取り組んでいます。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成、設置しており、感染症に関する資料を回覧で職員全員が確認できるようにしています。利用者、職員共にインフルエンザ予防接種を受け、ノロウイルス対策として塩素消毒やペーパータオル使用する等の予防を徹底しています。	○	事業所内で起こりうる感染症について、全職員が事業所内、外の勉強会や研修で学習し、予防・対策に取り組めるようにしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・手拭き、ふきん、包丁等1日3回調理後、毎日消毒しています。食材は買いためをせず、毎日、新鮮な食材を買いに行っています。冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検と整理しています。	○	衛生管理や食品の管理表を作成し、いつでも確認、把握ができるようにしたい。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口には、地域の方々が気軽に利用していただけるようベンチやテーブルを置き花や緑のプランターで飾り親しみやすいようにしています。パンフレットも置き、建物の紹介、案内をすることで安心して出入りしていただけるようにしています。	○	地域の方に実際に利用していただける、出入りしていただける工夫に取り組んでいきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、リビングはキッチンと対面しており、料理の香りや食材を刻む音などが聞こえ、テーブルにはご入居者と選んで買ってきた季節の花を飾っています。入浴には、ゆず湯や菖蒲湯をすることがあります。	○	運営者や職員の価値観で決めてしまわずに、ご入居者やご家族、来館者の感想や気づきを常に聞きながら空間づくりに取り組んでいきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下においてある長いすで仲の良い人同士が話をされたり、テーブルで趣味の書道をしたり、ソファではテレビをみてゆっくり過ごされ、床暖房をつける時期になるとリビングのカーペットに寝転んだりされています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物、使い慣れた物を使用していただいている。居室には使い慣れた机やミシン、仏壇などを持って来て頂き、できるだけ馴染みの物を置いてもらえるようにしています。	○	馴染みのものを持ち込めない方、馴染みのものがない方には、日々の生活の中で思い出となる写真を飾ったり、一緒に親しみのあるものを作ったりして居心地の良い空間をつくっていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	喚起は、掃除の時に必ず行い、食事の後などもしています。冷暖房は、温室時計で確認しながら、ご入居者の発汗の様子や冷えなどに注意し、希望も聞きながら調節するようにしています。	○	全職員が常に確認し、徹底できるようにしていきたい。
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差や家具の配置等、生活空間で転倒につながる原因がないかをチェックし、身体機能の変化など現在の状態に応じ生活環境の改善に努めています。	○	全職員が常に確認を行いミーティングで検討し徹底できるようにしていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室のドアには、一人ひとり好きな暖簾をかけたリ、表札代わりに名前をつけたりしています。	○	本人にとって「何がわかりにくいのか」「どうしたら本人の力のできるのか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めていきたい。状態が変わり、新たに混乱や失敗が生じた時は、その都度、全職員で話し合い本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるように試みていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設の入り口には、椅子やテーブルを置き、外気浴をしたり、フロアではプランターで花を育てたりしています。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所には○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
98	○職員は、生き生きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない